

【優秀修士論文】

2020年度(令和2年度)	
小澤 駿弥	“A study on US outward investment and investment treaties with a focus on the knowledge intensity of sectors”(産業別知識集約度に着目した米国の対外直接投資と投資協定に関する研究)
藤田 駿	「大学進学に伴う地域間移動の分析」
陸 揚	「日本茶産業システムの構造と茶産地振興をめぐる現状と課題—京都府伝統産地を事例としたソーシャル・イノベーションの可能性」
渡邊 碩	「ルーヨ・ブレンターノの資本主義精神論:『歴史の中の経済人』における共同体の人間観の形成と特質」
2019年度(令和元年度)	
井澤 公彦	「マルコフ転換モデルによる仮想通貨市場の分析」
植村 優貴	「Job Search Intensity and Wage Rigidity in Business Cycles (景気循環における求職努力と賃金の硬直性)」
瀧本 哲哉	「戦間期日本における消費社会の形成 —遊廓の大衆化の視点から」
呉 少志	“An Empirical Research on Social Media Marketing and Consumer Responses: leveraging the power of online opinion leaders.” (ソーシャルメディア・マーケティングが消費者行動に与える影響に関する研究: オンラインオピニオンリーダーの活用)
GEN XIN	“An Empirical Study on Immigration and Deep Trade Agreements” (移民と深い貿易協定に関する実証研究)
李 雨涵	“A research on Mandarin-Japanese-English trilingual Chinese tourists' service language preferences when traveling in Japan” (中日英三言語中国人観光客の訪日消費におけるサービス言語偏好に関する研究)
2018年度(平成30年度)	
石田 和己	「対日直接投資の要因と中国の関係について研究」
大賀 健介	「瀬戸内海沿岸における塩田廃止後の跡地開発問題—第四次塩業整備を中心に—」
小川 翔吾	「二部門不均衡成長モデルの分析」
木戸 大道	“DOES THE SAFETY TECHNOLOGY ACTUALLY REDUCE AUTO ACCIDENTS?” (安全技術により、自動車事故は減っているのか)
三田 光星	「Occupation Timeの動学的費用最小化問題への応用」
エレラ ベラスケス ホセ テ ヘスス	“Allocating Investments in Conglomerate Mergers: A Game Theory Approach” (コングロマリット合併への投資分配: ゲーム理論アプローチ)
2017年度(平成29年度)	
天野 良明	「IFRS任意適用がM&Aの収益性へ与える影響」
庄司 豊	「管理会計研究における研究手法としてのコンピュータシミュレーション—フィードフォワードコントロールが成果に及ぼす影響の分析—」
妹尾 康代	「公開特許公報データを用いた研究開発部門の生産性における人的ネットワーク効果に関する分析」
谷川 駿介	「貸出債券ポートフォリオのモニタリング方法を最適化することに関して」
劉 焯	“Stationarity of Autoregressive Processes with Endogenous Regime Switching and Asymptotic Properties of the Maximum Likelihood Estimator (内生的レジーム転換をもつ自己回帰モデルの定常性及び最尤推定量の漸近的性質)
2016年度(平成28年度)	
水 忠昊	“Rejection prices and an auctioneer with non-monotonic utility” (拒否価格と非単調的な効用関数をもつ出品者)
丸谷 恭平	“Analysis of mechanism design with maxmin agents” (maxminエージェントを考慮したメカニズム・デザインの分析)
百瀬 智仁	「G.カッセルの景気理論—1904年論文を中心として—」